静電気の応用に関する研究

原稿作成要領(サイズ見本)

東京学園理工＊, 山岳電気＊＊ 静電気太郎＊, 〇電気強＊, 応用電子＊＊

＊東京都麻布区港ヶ岡3-12-2　＊＊広島県福山市丸山2-34-2

所属と氏名は14ﾎﾟｲﾝﾄ程度．住所は12ﾎﾟｲﾝﾄ程度．もし所属が1箇所であれば＊は不要．登壇者には左上に〇を付けること

Electrostatic Application英文ﾀｲﾄﾙは14ﾎﾟｲﾝﾄ程度

Taro SEIDENKI\*, 〇Tsuyoshi DENKI\* and Denko OUYOU\*\*

\*Faculty of Science and Technology, Tokyo Gakuen

\*\*Sangaku Denki Co., Ltd.

英文氏名等は12ﾎﾟｲﾝﾄでabstractは10か11ﾎﾟｲﾝﾄ程度で記入

English abstract must be less than 200 words and all important points of the paper must be included. Such as: A novel type of surface electrostatic discharge application system is proposed and some of its test results are discussed. The new one consists of two main parts, A and B. A is a metal pipe device with four special frictional charging units. B is a cubic box with seven charge eliminators whose mechanisms are quite different, friction, pre-charging, corona-ionizer and so on. If one system works well, the other---- The end of the abstract. This font is times new roman 10 points.

**1.** はじめに

一般的注意として，テキストは可能であれば，段の横間隔を5 mm以上空けて2段にするときれいです．文字の大きさは9～11ポイント（印刷機によりやや異なりますが1段に25文字程度を基準にして下さい）を期待します．この文章は，パソコン用ワープロとして標準的なWord 2019で記述されておりますが，他のソフトでも問題ありません．できれば，本文のフォントは，英文はTimes New Roman，日本語はMS明朝をご使用下さい．

このテキストは，現在9ポイントのフォントを使用しています．文字の大きさ変更が自由にできない場合には文字の大きさは適当にして下さい．ちなみに，この用紙サイズはＡ4で，枠のマージンは，上: 25mm，下: 30mm，右左: 20mmです．従って，印刷枠は，上下: 242mm 以内 左右: 170mm 以内にあれば結構です．

文字の横間隔はできるだけ詰め，行間隔は比較的ゆったりとした方が見やすいと思われます．この例では，1頁あたり45行としていますので，1頁あたりの文字数は25×2×45=2,250文字程度ですが，文字の大きさによって適当に調節して下さい（1,400～2,400文字以内を原則として各自で工夫して下さい）．

**2.** 原稿の書き方

**2.1** 日本語タイトル

できれば17ポイント程度の大きな文字で中央に記入して下さい．はみ出す場合には2行にして下さい．

**2.2** 所属，氏名，住所

タイトルから5 mm以上行間を空けて，次の行に所属と氏名を記入して下さい．所属が複数ある場合には右上に＊を，登壇者には左上に〇を付けて下さい．次の行に氏名よりやや小さくして所属機関の住所を記入して下さい．

**2.3** 英文

見本のように，表題，氏名，所属機関，abstractを英文にて記入して下さい．

**3.** 本文

**3.1** 日本語の本文

序文，実験方法，結果，結論，参考文献等を，要領よく2頁，4頁または6頁にまとめ(奇数頁は受理されません)，締切厳守にて静電気学会事務局iesj@iesj.org宛に締め切り日必着で提出してください．6頁原稿は講演論文集に収録されるとともに，静電気学会誌への投稿論文として自動的に査読プロセスへ送られます．査読を経て採択されたものは学会誌に原著論文として掲載されます．詳しくは募集要項をご覧ください．なお，投稿論文としての取り扱いは学会誌投稿規定に準拠します．

**3.2** 参考文献

文献リストは文末のリストを上書きしてください．出現順に文献の番号をつけ，引用されている本文中に任意の文献リスト番号と「)」（片右括弧）を入力し，書式を上付きにします．文末の文献リストを上書きすると容易に作成できます．

**4.** 図・写真，表

**4.1** 図・写真の作成

図中の文字は7ポイント程度で，罫の太さは0.2ポイント以上にしてください．30％以下の網かけは使用できません．写真はスキャナやデジタルカメラでとったものを図と同じように取り込みます．

**4.2** 図のタイトルと説明の作成



図１　画像のサンプル

Fig.1 Sample of picture.

図は右上のサンプルのオブジェクトを使用できます．図のタイトルは図の下に和文・英文の順で，「図１　和文タイトル」，改行，「Fig.1 English title.」のように入れてください．English titleの後にはピリオド(.)をつけてください．描画オブジェクトで作成した場合，図の下をクリックして挿入→テキストボックスでテキストの枠ができますので，図下を2～3 mmあけて（段落→段落前の数値で設定ができます），和文・英文の順にタイトルをつけてください．

**4.3** 表の作成

表は文中ではなく，挿入→テキストボックスで入れるようにしてください．作成したテキストボックスの中に下記のように作成してください．表の左右の幅は80 mmまたは170 mmが便利です．表のタイトルは表の上に和文・英文の順で，「表１　和文タイトル」，改行，「Table 1 English title.」のように入れて下さい．English titleの後にはピリオド(.)をつけてください．「表の説明」がある場合には表の下に入れてください．

**5.** 単位

　単位は可能な限りSI単位を用いて表記してください．単位の例は表１のとおりです．

**6.** 式

　式番号（1）（2）・・・は式の後につけてください．

　　　　　　　（1）



参考文献

1. J. D. Brown and S. M. Satoh: Using static charge on crystals to produce electron and ion beams. J. Electrostat., **61** (2003) 149
2. 城田　稔，藤岡正春，光江洋一，堀健三郎，小野田秋輝：帯電の測定方法の開発．静電気学会誌，**28 (**2004) 29

表１　単位記載のしかた

Table 1　The table of units.

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| Variable | SI unit | %\* |
| Flow rate | m3/s | 50±3 |
| Velocity | m/s | 30±2 |
| Volume | m3 | 20±1 |

\*Mean±SD.

1. W. R. Happer: Contact and Frictional Electrification, p. 33, Oxford, London (1967)
2. 花田一郎：静電気障害対策，p. 201，静電社 (1988)
3. N. Gobson: Static Electrification Conf. Ser. 4, p. 71, Inst. Phys. Soc., London (1971)
4. G. Smith: Proceedings of 1st Symposium on Electronics, Tokyo (1980), Jpn. J. Appl. Phys., **20**, Suppl. 10 (1981) 161
5. 静電太郎，システムオート(株)：電荷制御システムの展開方法．特許第3752522号 (2006)
6. A. G. White, GW Co., Ltd.: Compact electrification.U. S. Patent 6,676,358(2004)
7. B. Black: Contact Electrification of Solid*,* ed. D. Blue, p. 55, Center for Academic Publications Japan, Tokyo (1996)
8. 巻　花子，大園道夫，村野　晃：パルス放電装置の放電特性．静電気学会講演論文集 '09, p. 21，静電気学会 (2009)
9. 本間裕一：パルスレーザーにおける薄膜の技術，JT-技術情報サイト(2008) http://JT-Techic-Info.jt.co.jp/pub/ detail.cgi? techeye\_id=32, (2009-06-23).
10. H. M. Burger: Corona discharge from particles. J. Am. Soc. Sci. Technol. (2011) in press. doi: 10.5558/jamsstech.2011-8-p 201, (2011-06-23)